

森の植物や鳥・虫などの動物を紹介します

1 エノコログサ (ネコジャラシ) (イネ科エノコログサ属)

園内のいたるところに生えている1年草で、高さ40～70cmになります。葉は線状皮針形で下部には長い葉鞘ようしゅうがあります。花は夏から秋、長さ4～10cmの花穂を茎頂につけ一方に傾きます。和名のエノコロは犬の子の意味で、その花穂が子犬の尾を思わせることによります。

ネコジャラシの別名がありますが、これは花穂で子猫をじゃれさすことによります。また、英語ではキツネのしっぽに見立てて *foxtail grass* といいます。一つの植物で、3種類の動物の名前がつかなくておもしろいですね。



2 キンエノコロ (イネ科エノコログサ属)



これも園内のいたるところに生えている1年草です。茎は基部で分岐、束生し、直立、ときどき斜上します。高さは20～60cmになり、でこぼこがなく、葉は軟らかく縁に細い鋸歯があります。花は夏から初秋、長さ3～8cmの花穂を立て、花穂についている無数のタネ(小穂)の基に黄金色の剛毛がついています。



3 オオイヌタデ (タデ科タデ属)

園内のいたるところに普通にはえる1年草。よく分岐し、高さ1m位になります。茎は多くは紅色を帯び、暗紫色の細点が多い。葉は長さ10～25cmでごく短い縁毛がありますが、葉鞘は膜質で縁毛はありません。花は夏から秋に咲き、長さ3～5cmの紅紫色ときに帯白色(写真は帯白色)の花穂をたれ下げます。



4 ヤナギタデ (ホンタデ、マタデ) (タデ科タデ属)

園内の湿地や水辺に生える1年草です。ときに田んぼの中で越年し、春早くに花が咲きます。また水中にあって多年草になります。高さ30～60cm。花は初夏から秋に咲きます。

和名は葉形に基づきます。漢名は蓼、辛味があり食用になります。



5 イヌビエ (サルビエ) (イネ科イヌビエ属)

園内の園路や駐車場傍、水辺などにはえる1年草です。束生し、高さ60~100cmになります。葉は長さ25cmくらいで幅4~10mm、花は夏に咲きます。

和名の犬稗は食用にならないヒエの意味で、サルビエはクマビエに対していい、粗毛がないことを表します。



6 スズメノコビエ (イネ科スズメノヒエ属)

暖地で日当たりの良い草原に多い多年草で園内にもいっぱいはえています。基部で多く分岐して束生し、高さ50~80cm、ときどき非常に大きな下部になります。葉は長さ20~30cmで、鞘口にのみ毛があります。花は夏に咲き、側枝は扁平で下面に小穂を偏側的に2列に密

生じます。和名はスズメノヒエより小型の意味で、全体に毛が少なく、小穂も長さ2~2.5mmと小さいものです。なお、スズメノヒエは葉や葉鞘に長軟毛が生えていますので違いが分かります。

7 メヒシバ (メシバ、ジシバリ、ハタカリ) (イネ科メヒシバ属)

園内のいたるところにごく普通に見られる1年草です。葉はやわらかく広線形、夏から秋にかけて、茎の先にススキのような放射状の花序を出します。

通常横を這うように広がりますが、周辺の草丈が高くなると、ほかの草に負けないように茎を直立させ、太陽の光を浴びにいきます。茎は長さ40~70cmになり、葉は長さ10~20cmになります。

また、横に這った茎の節々から発根し、たとえトラクターで耕されて植物体がばらばらになっても、茎の一部に根が残ってすぐに再生できます。和名の雌日芝は、雄日芝に対しての呼び名です。



8 ハネナガイナゴ (バッタ目イナゴ科)



園内で草原を歩くと、数え切れないほどたくさんのハネナガイナゴが飛び立ちます。羽の長さは腹端をこえること、メスでも細身なことなどで、コバネイナゴと区別できます。田園にもいますが、草地に多く、コバネイナゴより農薬の影響を受けやすいと思われます。主にこの号に載っているようなイネ科の各種植物を食べます。

